

歴史と文化 (History and Culture)

異文化/自文化研究へのいざない (Introduction to Japanese and Foreign Cultures)

高橋 晋一・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『文化人類学』)

【授業の目的】 「地球時代」を迎えた今日、われわれの生きている社会、およびそこに見られる文化は日々大きく変化し、ますます複雑なものになってきている。文化人類学の大きな課題の一つは、このような社会・文化の複雑な網の目を解きほぐし、その奥にある社会・文化の本質を洞察することにある。本講義は、異文化および自文化の本質を客観的に捉える視点を身に付けることを通じて、同じ地球に生きる他者(および自己)の理解に寄与することを目的とする。こうした客観的な他者/自己理解の視点の獲得は、持続可能な社会・共生社会のあり方を考える上で重要な手がかりになると思われる。

【授業の概要】 本講義では、文化人類学の幅広い研究領域の中から、特に基本的なテーマ、現在われわれが生きている社会・文化を理解するのに有益であると思われるテーマをいくつか取り上げ、概説する。講義では、世界の諸民族の文化のみならず、われわれの身近な生活文化(年中行事、ポピュラー音楽、ファッションなど)も積極的に取り上げる。

【キーワード】 異文化理解、現代社会、文化人類学、グローバリゼーション、民俗学

【先行科目】 [先行科目]

【関連科目】 『歴史と文化/沖縄社会文化論』(0.5)

【到達目標】 文化人類学の基本的な考え方・理論を理解し、それを元に人間社会・文化の構造や意味の分析を行うことができる。

【授業の計画】

1. 文化人類学の考え方-イントロダクション
2. 異文化理解の視点-アイヌのイヨマンテの事例より
3. ウチなる世界とソトなる世界-共同体の構造理解
4. 成人式とバンジージャンプ-儀礼論のパーспекティヴ
5. 文化と死生観-よりよく生きる/死ぬための知恵
6. 人間にとって「癒し」とは何か-医療と文化再考
7. 音楽が語るもの-ポピュラー音楽と文化・社会
8. 都市を「読む」-ディズニーランドの文化論
9. 日本人とクリスマス-文化の受容と変容
10. 衣食住の文化人類学(1)-住まいの文化

11. 衣食住の文化人類学(2)-装いの文化、食の文化
12. 世界をめぐる日本文化-グローバリゼーションとポピュラー・カルチャー
13. 私は何人(なにじん)?-民族とエスニシティ論
14. 開発、環境と観光-文化人類学と現代世界
15. レポート提出
16. 総括

【教科書】 教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

- ◇ 以下に挙げる概論・入門的な参考書のほか、個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 山下晋司編『文化人類学入門』弘文堂、2005年
- ◇ 綾部恒雄・桑山敬己編『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房、2006年
- ◇ 山口昌男『文化人類学への招待』岩波新書、1982年
- ◇ 21世紀研究会編『常識の世界地図』文藝春秋、2001年

【成績評価の方法】 本授業の成績評価は、授業への取り組み状況(25%)、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数(40%)、期末レポートの点数(35%)を総合して行う。ただし、評価割合の目安は括弧内のパーセントである。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 受講者の理解を助けるため、授業の中ではDVD、CD、パワーポイントによるプレゼンテーションなどの視聴覚教材を多用する。フィールドワークを「疑似体験」しながら、文化現象の意味について考えてもらいたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220702>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (前期)月曜12-13時)

History and Culture

Introduction to Japanese and Foreign Cultures

Shinichi Takahashi · PROFESSOR / INSTITUTE OF SOCIO-ARTS AND SCIENCES

2 units 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『文化人類学』)

Target) 「地球時代」を迎えた今日、われわれの生きている社会、およびそこに見られる文化は日々大きく変化し、ますます複雑なものになってきている。文化人類学の大きな課題の一つは、このような社会・文化の複雑な網の目を解きほぐし、その奥にある社会・文化の本質を洞察することにある。本講義は、異文化および自文化の本質を客観的に捉える視点を身に付けることを通じて、同じ地球に生きる他者(および自己)の理解に寄与することを目的とする。こうした客観的な他者/自己理解の視点の獲得は、持続可能な社会・共生社会のあり方を考える上で重要な手がかりになると思われる。

Outline) 本講義では、文化人類学の幅広い研究領域の中から、特に基本的なテーマ、現在われわれが生きている社会・文化を理解するのに有益であると思われるテーマをいくつか取り上げ、概説する。講義では、世界の諸民族の文化のみならず、われわれの身近な生活文化(年中行事、ポピュラー音楽、ファッションなど)も積極的に取り上げる。

Keyword) 異文化理解, 現代社会, 文化人類学, グローバリゼーション, 民俗学

Fundamental Lecture) [先行科目]

Relational Lecture) “History and Culture/Okinawa Society and Culture”(0.5)

Goal) 文化人類学の基本的な考え方・理論を理解し、それを元に人間社会・文化の構造や意味の分析を行うことができる。

Schedule)

1. 文化人類学の考え方-イントロダクション
2. 異文化理解の視点-アイヌのイヨマンテの事例より
3. ウチなる世界とソトなる世界-共同体の構造理解
4. 成人式とバンジージャンプ-儀礼論のパーспекティヴ
5. 文化と死生観-よりよく生きる/死ぬための知恵
6. 人間にとって「癒し」とは何か-医療と文化再考
7. 音楽が語るもの-ポピュラー音楽と文化・社会
8. 都市を「読む」-ディズニーランドの文化論
9. 日本人とクリスマス-文化の受容と変容
10. 衣食住の文化人類学(1)-住まいの文化
11. 衣食住の文化人類学(2)-装いの文化、食の文化

12. 世界をめぐる日本文化-グローバリゼーションとポピュラー・カルチャー
13. 私は何人(なにじん)?-民族とエスニシティ論
14. 開発, 環境と観光-文化人類学と現代世界
15. レポート提出
16. 総括

Textbook) 教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

Reference)

- ◇ 以下に挙げる概論・入門的な参考書のほか、個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 山下晋司編『文化人類学入門』弘文堂、2005年
- ◇ 綾部恒雄・桑山敬己編『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房、2006年
- ◇ 山口昌男『文化人類学への招待』岩波新書、1982年
- ◇ 21世紀研究会編『常識の世界地図』文藝春秋、2001年

Evaluation Criteria) 本授業の成績評価は、授業への取り組み状況(25%)、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数(40%)、期末レポートの点数(35%)を総合して行う。ただし、評価割合の目安は括弧内のパーセントである。

Re-evaluation) 無

Message) 受講者の理解を助けるため、授業の中ではDVD, CD, パワーポイントによるプレゼンテーションなどの視聴覚教材を多用する。フィールドワークを「疑似体験」しながら、文化現象の意味について考えてもらいたい。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220702>

Contact (Office-Hour, Room, E-mail)

⇒ Takahashi (+81-88-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: (前期)月曜12-13時)